

ひとにやさしい子
がまんづよい子
しゅうちゅうして学ぶ子

学校だより

ひがし

—第18号—

令和6年9月9日
西海市立西海東小学校
文責 校長

「負けました」と言うこと

敗者が「負けました」と声を出して言うことで試合が終わる。それが将棋というゲームのルールである。「負けました」と認めるときの心境とはいかなるものだろうと想像する。プロでさえ葛藤があるらしい。将棋を始めて間もない小学生などは悔しくて「負けました」が言えず、盤を前に泣きだしてしまうこともあるという。谷川浩司九段は、この「負けました」について対談でこう語っている。

「強い人は『負けました』をきちんと言いますね。(中略)一流の棋士はみんなそうです。」「だんだん年齢が上がってくると、自分の子供のような年の人とも対局することになるので『負けました』を言うのはつらいのですが、これは現役棋士である限りしっかりやらなければいけません。それがはっきりと言えなくなったらやめるしかないというような気持ちではいます。」(東洋館出版社「将棋に学ぶ」より) 将棋関係者は、「負けました」を言うことが子供の心を強くするとして、その教育的効果を指摘する。

話は変わって、米国人女優ハル・ベリーさんのエピソードである。彼女は2002年、「チョコレート」の演技でアカデミー賞主演女優賞を受賞した押しも押されもせぬ実力派だ。しかしその2年後に主演したSFアクション「キャットウーマン」の評判は散々で、ゴールデン・ラズベリー賞の「最低主演女優賞」に選ばれてしまった。この賞は映画ファンたちがその年の駄作を選ぶという意地の悪いイベントであり、ほとんどの受賞者は完全に無視する。しかしハル・ベリーさんは授賞式にさっそうと登場。トロフィーを手にスピーチした。「私がここに来たのは、小さい頃に母からこう言われていたからです。『良き敗者になれないなら、良き勝者にもなれない』」タフな人生観と懐の深さを披露した彼女は会場から大喝采を浴びた。彼女はその後浮き沈みの激しいハリウッド映画界で活躍を続けている。

【西日本新聞より】

学校や家庭等、子供たちの生活の中にはどの子も、負けたりできなかつたり思うようにいかないことがたくさんあります。このような時に、いかに自分の気持ちをコントロールするか、現状の自分を受け入れ次につなげるのが大事だと考えます。その経験の積み重ねが、人の成長に欠かせないことであろうと思います。「負ける」を絶好の機会ととらえ、「がまんづよい心」をつくるチャンスにしたいものです。



裏もごらんください。

手足口病が流行しています

全国的に手足口病が流行しているようですが、本校でも2学期に入り、手足口病に罹患するお子さんが増えてきています。手足口病は、出席停止の措置の必要はありませんが、発熱、体のだるさや、食欲がない、口腔内に発疹が出て食べられない等の症状がある場合は、お子さんの全身状態をよく観察し、普段通りの体調に回復してから登校するようにしましょう。熱が下がり、食事がとれ、普段通りに過ごせるようになれば、少しプツプツが残っていても登校は可能です。お子さんの症状や状態により判断してください。

～手足口病の感染予防～

手足口病のウイルスに対するワクチンや薬はないため、感染を防ぐには日常生活の中で予防するしかありません。手足口病の感染予防は、何よりも「手洗い」です。特にトイレ後の手洗いが大切です。

手足口病は飛沫感染や接触感染によって広がりますので、手に付着したウイルスを体の中に入れないためにもしっかりと手を洗うことが大切です。また、手足口病は接触により感染するため、タオルの共用はしないように心がけることも大切です。